

領、撰補器用社家、神事因准先例、宜被下知者也。院宣如此。悉之以狀。

元亨元年五月廿三日

在判

見山上人方丈

六月十五日。後宇多法皇、山城南禪寺に能美郡得橋郷加納得南・益延・長恒三名を安堵せしめ給ふ。

【南禪寺文書】 山城

一七七

南禪寺領加賀國得橋郷加納得南・益延・長恒三名事、任徳治・延慶勅裁、早停止國衙之濫妨、可至寺家管領之由、院宣所候也。仍執達如件。

元亨元年六月十五日

在判

見山上人方丈

七月廿二日。僧定賢、鳳至郡諸岡寺觀音堂に寺領敷地を寄進す。

【總持寺文書】 鳳至郡

一七八

諸岳寺 觀音堂寺領敷地事

合四至分限

右件寺地之境、雖非趣彌分、限東火尾、限南厨谷向谷、限西長峰、限北荒志之横道、爲末代之奉寄進之。仍勿令違犯。庄元百姓爲後見之狀如件。

元亨元年七月廿二日

權律師定賢 在判

（總持寺傳に據れば、この歳瑩山紹瑾は眞言の僧定賢より諸岡寺の地を讓渡せられて、初めて總持寺を起すとせり。果して然らば此の文書は諸岡寺を新寺地に轉せしめたるものと見るべく、而してその寄進せられたる所は正慶二年三月六日の條なる櫛比庄桑谷内村なるべし。）

九月十四日 假揭

【總持寺文書】 鳳至郡

一七九

傳來交割品目錄

行房書額 總持寺三字也

名款云

元亨元年辛酉九月十四日庚申書之

散位正四位下藤原朝臣行房

（本文書は藤原行房が元亨元年鳳至郡總持寺の額を書したることを言へり。然れども同年九月十四日は甲辰にして庚申にはあらず。疑ふべし。）

元亨二年

壬戌

紀元一九八二

五月廿三日。沙彌某、長康連とその弟季連との羽咋郡土田莊等傳領に關する爭論を裁決す。

【天野文書】

一八〇

長彦三郎幸康本名與繼母觀阿并子息七郎師連本名相論、父長木工左衛門尉幸連法師法名了半遺領能登國土田庄

上村、參河國富永保内助吉名、同久延名内田在家、相模國愛甲土器作田昌屋敷、上總國西谷郷内田在家、同富永内田地、下野國足利庄冷水河田昌屋敷事

右訴陳之趣、枝葉雖多、所詮彼所々者、了半去正和四年十二月廿日分讓後家尼觀阿及幸康・師連以下男女子之

後、文保元年十二月九日了半死去訖。爰於讓狀等者、幸康

并觀阿代官兼阿相共持參之。翌年九月十七日申給外題安堵面々知行之處、經兩三年、元應二年十二月之比、爲彼狀謀書之旨幸康申之處、了半中風所勞之間、右筆依爲難治、雖爲讓狀他筆、於位署判形者自筆之條、無相違之旨令存幸康之間、自身持參申給御外題訖。有所存者即可申子細之處、送年序之後致寄訴之條難遁其咎之旨、師連等陳答叶理致歟。且令申安堵事、幸康無論而至位署判形者、爲了半自筆之由令見之間、非可求類書於外、宜是准的歟。是一。次遺跡相論之習、不拘安堵者古今例也。二。依外題之旨、幸康同雖稱之、讓狀就無相違申安堵之條、載先段訖。仍彼狀尤爲龜鏡。是三。次設樂三郎左衛門入道亡妻者、依爲了半嫡女、於是利庄給田昌者、不貽段步讓与之處、師連分取壹町之上者、了半死去之後構出謀書之條顯然之旨、幸康亦雖申之、於爲謀書者、彼女子跡輩可訴申之處、無其僕之間、實書